



## ②主として持続可能な生産と消費にかかわる教育 ～5年生の活動～

### 『お米のひみつをさぐる』

地域の田んぼをお借りして、地元の稲作農家の方々の協力を得ながら、米作りの活動を年間を通して行った。代掻きや田植え、稲刈りや脱穀など、稲を育てお米が食べられるようになるまでの過程を、体験的に学習した。児童は、自分から進んでかかし作りに取り組むなど、無事に最後まで育てるための工夫を考えた。

収穫の際には全員で豊に大きく実った稲を刈り取り、収穫の喜びを味わった。さらに、「収穫祭」として、収穫したお米を米俵にしたものを実際に間近で見たり、手で持ったりすることで、一年間かけてお米を育てる労働の重みを感じることができた。収穫祭では、お世話になった農家の方々を招き、お米に関して学んだことや調べたことを発表するとともに、感謝の気持ちを皆で伝えた。最後に、収穫したお米を炊いておにぎりを作り、自分たちが育てたお米をじっくり味わうことを通して、お米のおいしさや一粒に込められた農家の方の思い、育てる苦勞など、多くのことを学び取ることができた。

その後の給食では、以前よりも残飯がはつきりと少なくなり、活動の成果を感じることができた。



(2) 活動の詳細

①活動内容

ア、活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育（GCED）	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他		

イ、活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他（自由記述）	

ウ、活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他（自由記述）	

エ、使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

百科事典 「お米のひみつ」等
-------------------

②ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校ではユネスコスクールの活動＝E S Dの活動ととらえ、各学年の教科の時間、および3年生以上の学年においては、総合的な学習の時間も活用しながら計画的に実践している。

1, 2年生においては、植物の栽培・観察活動を軸に学習をスタートさせ、食育へと発展させながら、最終的には身近な自然を大切にしようとして進んで行動できる児童の育成を目指して活動に取り組んでいる。

3年生以上では、総合的な学習の時間において各学年のテーマ（3年生は地域、4年生は福祉、5年生は環境、6年生は国際理解）のもと、E S Dの活動に取り組んでいる。

各学年の取組に関する評価については、年度末に振り返りの時間をとり、適切に活動できたか、あるいは他にもっと教育効果の高い活動の仕方はなかったかなどを検証し、次年度担当学年に確実に引き継ぎを行うようにしている。また、使用した資料や関係諸機関への連絡先等の情報をストックさせ、誰が引き継いでも指導ができるようにしている。

③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

E S D担当者を中心に、各学年の活動や取組の詳細が分かるようにポスターを制作している。制作したポスターをもとに、集会で学年の取組を発表したり、学校公開の際に保護者に見てもらえるように掲示したりしている。また、市全体でも集約して掲示する機会があり、各学校の取組についてお互いに見合うことができるようになっており、次年度以降に計画を立てる際の参考に活用している。

④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

ユネスコスクールとしての活動＝E S Dの活動については、本校の特色ある教育活動として保護者にもPRし、積極的に公開授業でも取り組んでいる。

公開授業で取り組んだ内容については、毎回保護者評価を実施しており、授業内容についての意見を自由に書いてもらっている。

集まった意見については、まず担当学年で共通理解を図るようにし、特に改善点・課題に関する記述は全職員で情報を共有し、改善策を立てることにしている。

保護者の意見を積極的に受入れるようにしたことで、保護者評価の満足度が向上した。ただし、全ての保護者の要望を受入れる訳にはいかず、取捨選択を適宜行う必要がある課題はあるが、今後も積極的に幅広く意見を取り入れていきたい。

⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

ESD担当者を中心に、各学年の活動や取組の詳細が分かるようにポスターを制作している。制作したポスターをもとに、集会で学年の取組を発表したり、学校公開の際に保護者に見てもらえるように掲示したりしている。また、市全体でも集約して掲示する機会があり、各学校の取組についてお互いに見合うことができるようになっており、次年度以降に計画を立てる際の参考にしている。そのため、他校で実践した成果を本校の計画に活かすことができるため、質の高い取組につながっているといえる。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

学校以外の団体では、地域の農家との連携を活発に行っている。本校は、都市計画に基づく開発地域にできた新しい学校であり、学区域はほぼ開発された住宅街である。したがって、わずかに残る農地は貴重な農業体験の場であり、そこで暮らしを営む農家の方々は、地域の方々にとっても貴重な存在となっている。そのような農家の方々と連携しESDを進めていくことは、地域の環境を守る上で非常に大切な活動であり、地域連携はこの活動に欠かせないものとなっている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

昨年度はまだ、国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成までには至らなかった。

⑧ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

5年生の稲作体験の活動では、これまで食べるだけの対象でしかなかった「お米」というものが、「作る」「育てる」「収穫する」「味わう」「感謝する」対象へと、劇的に変容していった。

特に収穫後の試食会では、お米を育てる苦労や、食べられることへのありがたみを含めて、ひと噛みひと噛み、おいしさをかみしめながら、嬉しそうに食べる児童の表情が印象的だった。

その後の給食では、お米はもちろん、その他の食材の残菜が目に見えて減り、食べ物自体への感謝の気持ちや、残さず食べることの大切さを学んだことをはっきり感じる事ができた。

### （3）平成30年度の活動計画

- 1年生・・・学級園を活用したお花やその他の植物の栽培活動・観察活動
- 2年生・・・地域の畑を活用した野菜の栽培活動・観察活動および収穫祭
- 3年生・・・地域安全マップの作成に向けた、地域調査活動
- 4年生・・・体に障がいのある方を招いての交流活動、福祉体験活動
- 5年生・・・地域の田んぼを活用した稲作体験・観察活動および収穫祭に向けた発表活動
- 6年生・・・ハンセン病資料館見学を通じた人権啓発活動  
ゲストティーチャーを招いてのキャリア教育